



地域の宝に学ぶ ～東沢小学校～

5月29日（水）、東沢小学校の学校運営協議会では「地域学習で地域と学校が更なるつながりを～『出向く』『迎える』の具体的な姿～」というテーマで熟議を行いました。委員から「地域の歴史や地理を学んで、地域に愛着を持ってほしい」「地域の未来を創ってほしい」「もっとたくさんの住民に関心をもってもらいたい」といった意見が出され、学校と地域の連携・協働のビジョンが描かれました。

6月17日（月）、さっそく子どもたちが地域に出向く学習が行われました。6年生の総合的な学習の時間で山形県が行う「景観出前授業」を活用し、東沢地区の魅力について学ぶ地域学習です。校内での説明の後、子どもたちはタブレットを手に蔵王権現堂や釈迦堂公園、唐松観音に向かいました。

子どもたちは山形県や山形市の担当者のほか、蔵王大権現保存会長の佐藤氏、東沢コミュニティセンター所長の横山氏、唐松観音別当の石井氏の説明を聞き、東沢地区の「地域の宝」の歴史や伝説、現在の維持・管理などの状況、それにかかわる人々の思いについて学びました。

東沢地区には、他にも法来寺の「木造釈迦如来立像」や蔵王権現堂の「木造蔵王権現立像」（市指定有形文化財）、「禅昌寺のヒガンザクラ」（市指定天然記念物）などがあります。このような地域学習を通して、子どもたちは地域にある身近で当たり前のものの価値に気づき、「宝物」となっていくのではないかと思います。

文化財や天然記念物だけではなく、山や川などの自然、畑、田んぼ、お祭り、踊り、駅、商店、そして何より心温かな地域住民など、「ヒト・モノ・コト」のすべてが地域の宝物です。

「景観出前授業」とは、山形県が行う「やまがた景観物語」の関連事業で、景観を学ぶ機会を作り、将来にわたり、郷土愛を育み、郷土の良好な景観を守り育て得る活動ができる人づくりを目指しています。「日本一の芋煮会 初代大鍋から見る唐松観音」のほか、「山寺芭蕉記念館から見る宝珠山立石寺の眺め」や「蔵王ロープウェイ地蔵山頂駅から見る樹氷群」など、県内で100箇所が「やまがた景観物語おすすめビューポイント」になっています。

地域に生まれた子どもたちの学びの場 ～第39回山形紅花まつり～

地域住民が子どもの学びを創る①～あの学習をもう一度～

以前、高瀬小学校では紅花まつりの際に6年生がバスガイドになって来場者に高瀬の魅力を伝えるという学習を行っていました。「もう一度ガイドを見たい」という地域住民の願いや以前祭に来たことがある方の声がある一方で、児童の減少や授業時数の確保など学校では教育活動として実施することは難しい状況がありました。そこで、学校運営協議会で協議を行い、地域が主体となって「バスガイドを募り『大好きな高瀬の魅力』を伝える」プロジェクトを立ち上げることになりました。

山形紅花まつり実行委員会の了承を得て、地域学校協働活動推進員が児童と地域住民に参加者を募ったところ、3人の6年生と4人のスタッフ、1人の中学生サポーターが集まりました。当日までの間、日曜日の午後に5回の練習と打合せを行いました。紅花まつりの2日目、いよいよバスガイド本番です。子どもたちは緊張しながらも、楽しそうに案内をしていました。乗車希望者が多く、臨時便を増発することになったそうです。

【参加した子どもたちの感想】

- ・バスから降りるお客さんが笑顔だったのが嬉しかったです。
- ・最初は緊張したけれど、やってみるとおもしろかった。来年にも受け継がれてほしいです。
- ・話す力がつきました。話す力を使って人にわかりやすくしたいです。

【地域学校協働活動推進員より】

「思い切ってやってみよう、遠慮しないでお願いしよう」がテーマの地域学校協働活動。バスガイドの学習が「高瀬の子どもたちの表現力を育てる絶好の機会」であることを地域の方も先生方も十分理解しています。「学校で取り組むことが難しい。それなら地域でやろう」それが4年ぶりに復活したバスガイドのスタートでした。来年に引き継いでいきたいと考えています。

地域住民が子どもの学びを創る②～山形市放課後子ども教室～

紅花まつりが1日目、ベニっこアフタースクール「手・指で描く紅花アート」を開催しました。講師は高瀬地区在住のアナログイラストレーター、さかいかんなさんです。高瀬地区内外から集まったスタッフ4名と高瀬地区に住む中学生ボランティア1名のほか、保護者を含む地域住民5名がサポートをしたり、子どもたちと一緒に活動を楽しんだりしました。

子どもたちはたくさんの人とかかわりながら学んでいます。多様な大人とかかわりながら学ぶことができることが地域の学びのよさの一つだと思います。「地域の学びの場」は子どもたちにとって安心できる「地域の居場所」となるのではないかと考えています。